



昨年度、アルシエは多くの方と一緒に多種多様な事業を展開しました。総会では、会員のみなさんに映像でご報告。今号では、2009年度のアルシエの活動を事業ごとにまとめてみました。



公募型事業

ハートフルサロンステージと、展示ギャラリーの開放事業。**市民団体**が活動発表の場として利用されました。

ステージ利用件数	14
ギャラリー利用件数	24



アルシエ常設委員会

6つの常設委員会が、それぞれの分野で活躍。2009年は、**2年越し**で体験型移動展示館「エネ博」の誘致に成功！委員会が主体となった事業は次のとおり。

- ・エクラ館内案内、施設PR
- ・会員の交流の場づくり
- ・広報誌発行及び情報発信
- ・展示型事業
- ・子育て支援事業
- ・ガーデニング



受託事業

①～③は小野市から、④は北播磨県民局、⑤と⑥は兵庫県から受託。

- ①小野市男女共同参画センター
- ②小野まつり
- ③小野市国際交流協会
- ④北はりまステーション
- ⑤小規模作業所パワーアップセミナー
- ⑥NPOと行政の子育て支援会議運営事業

いろいろな事業を通して、年々ネットワークが広がっているよ。



2009年度の事業から見る

アルシエの活動



うるおい交流館事業

梯剛之ピアノリサイタルなど、**20**の事業を実施。関わったボランティアによる委員会及び実行委員会数は12。人数にすると延べ**579**名が事業の運営に携わりました。



梯剛之ピアノリサイタル



市民活動活性化事業

4事業を実施。うち3つが継続事業ですが、目標に向かって毎年**ステップアップ**しています。

- ・市民サポーター育成事業
- ・市民活動リーダー育成事業
- ・エクラ・ミュージック school
- ・北播磨自然観察指導員育成事業



NPO支援事業

次の事業の他、NPO大学サテライト校の運営協力を行いました。

- ・NPO法人設立等の相談事業
- ・NPOスキルアップ事業
- ・NPOモデリング事業
- ・子ども未来ネットin北播磨実行委員会支援事務局事業

もっとパワーアップしたい分野なんだ。



説 例

コピー機を40万円で購入し、現金で支払うケース。



「1取引1仕訳」の場合

- ① 借方／什器備品40万
貸方／現金40万
↑↑という仕訳を起票

「1取引2仕訳」の場合

- ① 借方／什器備品40万
貸方／現金40万
↑↑という仕訳を起票
- ② 借方／什器備品
購入支出40万
貸方／固定資産
購入額40万
↑↑という仕訳を追加

随分以前のことでありますが、アルシエが開設されるというので私もNPOの勉強をしなければということになり、税理士会の研修を大阪まで受講しに行った時のこと。東京から来られた講師の先生が「NPOにおいても必ず1取引2仕訳ね！」と開口一番。私は「なんでやねん!？」と理解に苦しんだ思い出があります。

では何故、2つ目の仕訳を追加するのでしょうか。昭和53年から実施された公益法人会計基準に「公益法人は収支の状況を明瞭に決算書に表示しなければならぬ」という考え方が盛り込まれており、収支計算書と正味財産増減計算書の作成が義務づけられたからです。そのため公益法人では「1取引2仕訳」が絶対に必要とされたのですが、NPOについては別個にNPO会計基準を設定せずに、既存の公益

「1取引2仕訳」って？

理由は、公益法人会計基準に

From outside



NPOを取り巻く現状、NPOに関する問題についてMr. Deeが語る！

こんにちは NPO法人会計基準様

さらば1取引2仕訳殿！

今年7月に策定された「NPO法人会計基準」。これからNPOの会計はどのように変わっていくのでしょうか？

NPO会計は簡単なのが一番

法人会計基準に準拠して会計を行いましょうという発想から、NPOにおいても「1取引2仕訳」となってしまったためです。今から言えば、盲目的に受け入れたこと自体が間違っていたわけですね。

この度、新たにNPO法人会計基準が制定され、その中では「1取引2仕訳」を明確に否定しているのを見て、「ああ良かったね」と心から安堵しております。

私が「良かった」と思う理由は2つです。NPOの会計担当者は会計には素人の方ばかりです。その方々に必要以上の心労を掛けなくて済むだろうということ、もう1つは「1取引2仕訳」に明るくなかった普通の税理士先生にもNPOの税務顧問をお引き受け頂けるようになったということです。

NPO法人会計基準に関する情報は、下のアドレスから閲覧・ダウンロードできるよ！

↓↓↓
<http://npokaikai.blog63.fc2.com/>



会計は専門家の領域であってはいけません。難しくこねくり回してはいけません。会計専門家の論理を押しつけないで、活動の足を引っ張ることになるからです。NPOの活動領域は無限ですが、なによりスピードが求められますから、会計専門家が口を挟むべきではないのです。簡単な会計が一番良いのです。その意味では今回の会計基準は大成功ですから、どうか、関係者の皆様、新しい会計基準をそのまま育ててほしいと切に願います。

Mr. Dee
(ミスターディー)

職業柄、NPOの経営や会計に詳しくなりました男。曲ったことは許さない！他人にも自分にも厳しい、かなりの勉強家。今回の連載では、「外の目」でNPOを検証します。